

●少数民族が散居する中部高原は、戦後、水源開発や開墾・入植など様々な政策が適用されている。本書は人類学の手法から持続可能な開発を提言する画期的労作。

# ベトナムの少数民族定住政策史

新江利彦 著

本書はベトナムの辺境地域―中部高原の二つの灌漑事業地域を事例として、国家の開発計画と環境計画の実現のために行われる少数民族の定住事業及び再定住事業が少数民族の実社会に及ぼした影響と及ぼしつつある影響を考察する。

ベトナムは中国・インドネシアに次ぐ日本の政府開発援助供与先であり、中部高原における水資源開発案件もまた日本の実社会とベトナムの実社会の接点の一つである。中部高原における少数民族問題は日本人による統合モデル研究のテーマとなり得る。しかし、ベトナムに限らず、日本の援助事業には人文・社会科学―とりわけ社会学者・人類学者の参加が少ない。

開発事業に伴う社会調査の目的は被影響住民共同体に対する環境社会配慮の実現である。社会経済指標や保健指標などの定量調査は住民が受ける影響の数値化として意味があるが、定量調査だけが注視され定性調査が標本世帯への初歩的な聞き取りに終わった場合、開発事業が住民の生活や信仰の場を破壊するという最も深刻な影響が見落とされる。

ダイニン事業において発電所建設予定のソップライ地区におけるポーケイダプ祠堂跡地の存在を世界銀行の調査団が見落としたのは、地域の実情に疎い調査者が伝承知識と無関係な高齢者を対象に聞き取りを実施するという、民族学・民族史の訓練を受けた人類学者なら有りえない杜撰な調査手法が引き起こした重大な過失であった。

本書は、限定された二つの農業開発事業―ダテ灌漑事業とファンリ・ファンティエト灌漑事業を対象に、民族学・民族史の手法を用いて、定住事業の推移と、定住事業が人々に及ぼす影響を時系列的に叙述するものである。使用した文献は基本的に全て原書であるが、訳本があるものはそれを参照した。

## 序章

### 第一章 中部高原における少数民族政策の形成

中部高原少数民族の歴史／FULROの誕生・中部高原における少数民族問題の起源／中部高原における少数民族定住政策の形成／構造調整導入後の少数民族の困窮／一九九〇年代の少数民族政策研究状況／二〇〇〇年以降の少数民族暴動の発生／中部高原における少数民族問題の解決方向

### 第二章 チャム王家による中部高原支配

中部南方における高原と沿海の関係史／カロン溪谷の土地とその所有者／チャム王家の中部高原支配／チャム王家による中部高原支配の本質

### 第三章 灌漑事業の恩恵が受けられない人々

ダテ灌漑事業とマー族／主穀生産―焼畑農業をめぐる村人と林業公社の関係／日雇い労働―竹取をめぐる村人と水利施設保安担当者との関係／ダテダム建設以後の人々の生存戦略／隣接するコーヒー栽培地域との比較／新たな移住開拓計画／コンオ山塊における定住化の教訓

### 第四章 灌漑事業の享受を拒絶する人々

ファンリ・ファンティエト灌漑事業とカロン溪谷／カロン溪谷の人と歴史／被影響住民の不安／過去の移住の経験／王家の水田の現状／移住が人々に及ぼした影響と、これからの移住への展望

## 終章

引用文献 おわりに 付録

## 体裁

・A5判・上製カバー  
・四〇〇頁

## 定価

・八八二〇円  
(本体八四〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一―一四九  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

流通センター  
取扱品

地方出版

発売 風響社 TEL: 03-3828-9249

税込み 八八二〇円

部

新江利彦著

ベトナムの少数民族定住政策史

ISBN978-4-89489-115-9 C3036 ¥8400E

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所  
お電話

月 日